

Researcher+シンポジウム 2022

—世界で活躍できる研究者育成プログラムの開発と普及—

(2022 年 12 月 16 日 (金) 13:30~17:00 開催)

【Q&A 集】

シンポジウム後に寄せられたご質問について、本事業プログラム・ディレクターより、以下の通り、回答いたします(ご質問は一部編集しております)。また、当事業から回答できない質問につきましては、掲載を控えさせていただきます。どうぞご了承ください。

【Q1】日本の若手研究者が世界で羽ばたくために、意識すべきことや伸ばすべき能力はなにでしょうか。【大学院生】

【A1】

- JST では、国内外を問わず、他者を惹きつけて啓発する、他の研究者と協同する、社会や市民との関わりを深めて研究で社会や文化を豊かにするといった「ネットワーキング力」を一つの能力として重視しており、そのような能力を伸ばしていただくため[「研究+αの活動支援プログラム」](#)を提供しています。採択された方々のメッセージがご参考になるかもしれませんので、どうぞ弊事業ウェブサイトでメッセージ動画をご覧ください。また、「自分が認められるところで最大限活躍する」と言う姿勢も大切です。控えめにならずどんどん世界へ向かって自分をアピールしていきましょう。

【Q2】海外に行く際、英語力はどの程度あればよいでしょうか。目安や基準はあるでしょうか。【大学院生】

【A2】

- 英語力の目安や基準を満たすことを考えるより、研究に必要なコミュニケーションができているかどうかを考えた方がよいでしょう。弊事業が提供した[研究者のための+αシリーズ Vol.14「How to Develop Your Diplomacy as a Researcher—「研究者」と「外交」—](#)では、若手研究者が海外で共同研究を始めるための心得についてお話いただいていますので、アーカイブ動画をご覧ください。また、[研究者のための+αシリーズ Vol.8「How to Give an Impressive Pitch Presentation in Global Situations—研究者の国際 R&D 戦略としてのセールストーク—](#)」、ならびに、[研究者のための+αシリーズ Vol.10「Socializing &](#)

Networking at Global Academic Events—研究者のための国際社交術の心得—では、研究者に求められる英語でのコミュニケーションの技術を伝授しています。こちらの Q&A をぜひご参考になさってください。研究者の国際的な活動も国の外交や国際組織の活動の一部につながることを忘れないようにしてください。

【Q3】 海外について、欧米はもちろん最近のインドの動向に関心を持っています。これから先インドへ進出に対する期待や目標はありますか。【大学院生】

【A3】

- インドに限らず、欧米以外の国々の現状とそこで生活する人々の価値観を理解することは、特に SDGs に関連するテーマを扱っている研究者にとっては非常に重要です。また、国際的なネットワークを形成し、研究を発展させるビジョンを持つ上でも、多くの国々の研究者と交流を持つことは有意義でしょう。特に、インドは人口も世界一となり、今後の発展や世界の科学技術においても重要な国となると思います。ぜひインドとの人脈を作ってください。

【Q4】 教員は、授業や事務作業、委員会や会議などでなかなか研究時間が取れません。みなさんはどのようにタイムマネジメントをされているのでしょうか。【教務助手】

【A4】

- タイムマネジメントについては、[研究者のための + \$\alpha\$ シリーズ Vol.9 「Thinking While Acting to Flourish Your Research—研究人生あるある問題とその対処法—」](#)でのお話をご参考になるかもしれません。ぜひアーカイブ動画をご覧ください。世界では大学によっても、教員の役割は色々と違います。他国の例も調べて、自らが所属する組織のあり方についても考えてみるとよいでしょう。

【Q5】 パネルディスカッションにおいて海外大学における研究支援者の研究者に対する支援について、どのような支援が行われているのか具体的に知りたいです。【URA の方】

【A5】

- 弊事業のウェブサイトには、[海外の取組事例について紹介した記事](#)を掲載しています。ぜひご覧ください。今後は、優秀な研究者や教員の世界的な獲得競争が益々激しくなります。日本の魅力をどのように作り上げるかも重要な課題です。

以 上